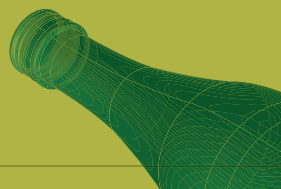


1.8ℓびんの現状



1

100年以上の歴史を持つ1.8ℓびん

量り売りと徳利の時代

ガラスという素材は約5000年前から存在したといわれていますが、身近な容器として広く使われるようになったのは機械による大量生産が始まってからです。わが国で機械による製びんが始まったのは1907年（明治40年代）頃で、それ以前は輸入ビールやワインの空きびんがリユースされていました。

びんが登場するまで、日本酒は樽で運搬され、小売店の店頭で、升で計量して徳利に移して販売していました。酒屋が客に貸す徳利のことを「通り徳利」と呼びますが、これは店と客の間を行き来するところから由来した言葉です。金持ちは樽で買い、貧しい庶民は毎日飲む分だけ徳利で買うので、この徳利のことを「貧乏徳利」と呼んだりします。



陶器樽

1.8ℓびんの登場

明治になると輸入ワインびんを使ったり、陶器の1.8ℓびんが登場するなど、日本酒の容器にもいろいろな工夫がこらされるようになりました¹。

1886年（明治19年）頃に、朝鮮や上海などへの少量輸出用や博覧会出展用として、ガラスの四合びんの日本酒がつくられたようです。また1894年（明治27年）には、桜正宗が国内で四合びん入りの製品を発売しました¹。

1.8ℓびんに入った日本酒が登場したのは1901年（明治34）とされています²。1908年（明治41）頃には月桂冠が1.8ℓびん入りを発売しました。また1896年（明治29年）には、輸出用に陶器製の1.8ℓびんが使われました。

ガラス製の1.8ℓびんの量産を始めたのは大阪の徳永硝子製造所という会社で、大正末期のことでした。当時アメリカにも1.8ℓびんのような大型のびんを自動製造する機械はなく、輸入した機械を改良して1.8ℓびんの大量生産を実現しました。これを契機に日本酒は1.8ℓびんで販売されるようになり、1.8ℓびんは醤油やその他の容器としても利用されるようになりました³。

日本酒の場合、戦前は樽とガラスびんの比率は6対4程度でした。ガラスびんの本格普及は戦後になってからで、1965年（昭和40年）頃には、日本酒のほとんどがガラスびん入りになりました。そして、その大半は1.8ℓびんであったと思われます。1.8ℓびんは10本入り木箱に入れられて流通しました⁴。

1 今安聰「清酒用1.8ℓ瓶の新しいプラスチック製替栓について」日本醸造協会雑誌65 巻（1970）7 号

2 ガラスびんリサイクル促進協議会「びんのリサイクル通信」2008年8月5日

3 山本孝造「びんの話」社団法人日本能率協会1990年

4 株式会社光陽ホームページ



■ 明治から大正にかけての1.8ℓびん：ボトルシアター（館長庄司太一氏）所蔵

- ① 大正から昭和初期にかけてと思われる陶製の1.8ℓびん
- ② 明治30年代と思われるガラスのねじ栓を使用した1.8ℓびん（手吹き）
- ③ 明治40年代頃と思われる機械栓使用の1.8ℓびん（半人工機械吹き）
- ④ 明治末から大正期にかけての貸し出し用1.8ℓびん
- ⑤ 大正10年代以降の王冠栓用1.8ℓびん（機械製びん）
- ⑥ 昭和初期の王冠栓用1.8ℓびん（派手な模様で一世を風靡）
- ⑦ 昭和初期の貸し出し用1.8ℓびん（「器非買」という吹きつけ文字）
- ⑧ 昭和10年代の貸し出し用1.8ℓびん（吹きつけ文字の酒店は数年前まで健在）
- ⑨ 昭和20年代の1.8ℓびん（全自動機械製びん）

王冠の変遷

日本で最初に王冠を使った日本酒は1900年（明治33年）の江井ヶ嶋酒造と1901年（明治34年）の嘉納合名会社（現、白鶴酒造）で、輸入された王冠でした⁵。

1907年（明治40年）頃にはコルク栓から、瀬戸物と針金の組合わせの口金にコルク栓の中心に穴をあけたもの（中抜き）を差し込んで瓶につける金具つき栓へと

移行しました（上記写真③④）。1910年（明治43年）頃には英国人がつくった単式の王冠も広まり、1914年（大正3年）の初めに替栓、冠頭よりなる複式王冠ができ栓抜きがいらぬ栓が登場しました⁶。その後、1970年（昭和45年）頃から替栓が、コルク製から、ポリエチレン製の栓になりました。

「丸正びん」として普及

1956年（昭和31年）に計量法が施行され、1.8ℓびんは計量法の基準に適合した「特殊容器」になりました。特殊容器とは内容量を計量することなく、液面の高さで計量することによって取引することが認められているガラスびんのことで、「丸正マーク」が付けられます。1.8ℓびんのほかに、ビールびん、醤油びん、牛乳びんなどがあります。

これらのびんは「丸正びん」と呼ばれています。1.8ℓびんの出荷量がピークだった1973年（昭和48年）には全国で約15億本使用されましたが、年々利用本数が減少し、2016年（平成28年）では当時の10分の1以下の約1億3千万本になっています。



一升びんの丸正マーク

5 きた産業株式会社ホームページ

6 今安聰「清酒用1.8ℓ瓶の新しいプラスチック製替栓について」日本醸造協会雑誌65 巻（1970）7 号